

特集 日本の原生が残る秋の「照葉樹の森」を歩く。

と違って、周りの色に同化するので見つけにくいですが、コツさえつかめれば面白いように見つけることができますよ」と森の魅力を語ります。

子どもの頃から植物や生き物に興味があった東さんが現在の仕事に就いたのは、平成18年4月。普段は登山道の草刈りや整備などの管理中心ですが、週末や行楽シーズンはトレッキングガイドとして照葉樹の森の魅力を伝えていきます。

「月例登山会」として毎月のイベントを開催するほか、依頼があれば各コースの案内もしているそうです。初心者にも歩きやすいコースが準備されているので、小中学生の遠足などにも利用されています。

自然石展望台へ向かう途中で、水源を見ることができそうですが、そこまで沢沿いを歩くことになります。帰るころには、ほとんどの子どもが沢の中を歩いているそうです。

「子どもたちには、実際に目で見て、手で触れて自然を感じてほしい。この森には、貴重な樹木や動植物が昔から変わることのない姿で残っている。開発によって原生の照葉樹林帯は日本から減っていき、いまでは森林面積のわずか1%ほどしか残っていません。次の世代へ引き継いでいくためにも、まずは森へ入って、知ってもらいたい」と力を込めます。この自然を未来へ残すために歩くことから始めてみませんか。

かれきだけ
枯木岳頂上 (標高959m)

ここからの眺めがおすすめ。
天気によっては、種子島や
屋久島も見れますよ。

鹿児島県照葉樹の森管理事務所
ひがし あきら
所長 東 顕 さん